













《 第 7 7 回景況アンケート調査(平成 2 1 年 9 月調査) 》

とよしん景況天気図

業 種	調査時期	現 状	見通し
		21/7 ~ 21/9	21/10 ~ 21/12
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《 記号の意味 》

DI 数値	30 以上	良 い	
DI 数値	10 以上 ~ 30 未満	やや良い	
DI 数値	10 未満 ~ 10 未満	普 通	
DI 数値	10 以下 ~ 30 未満	やや悪い	
DI 数値	30 以下	悪 い	

《 DI の意味 》

DI とは、デフュージョン・インデックス(拡散指数) の略で、増加(良い) 企業の割合から減少(悪い) 企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

要 旨

『 当地区の景況は、厳しい状況が続いているが、最悪期を脱して回復傾向を示している。』
当期(7~9月) のDI は、業況 28.5(前期比+11.7ポイント)、売上 25.1(前期比+14.8ポイント)、収益 21.3(前期比+16.1ポイント)と、全てのDI において前回より改善され、底入れしたとみられるが、依然厳しい状況が続いている。前年同期比では、業況 17.7ポイント、売上 21.0ポイント、収益 5.2ポイントと全てのDI において下回っている。一方、来期見通し(10~12月) については、業況 15.7(当期比+12.8ポイント) 売上 6.8(当期比+18.3ポイント) 収益 11.3(当期比+10.0ポイント) と全てのDI においてマイナス幅はさらに縮小し、回復傾向を示している。

業況DI

最近3ヵ月の業況DI は、総合 28.5と前期比 11.7ポイント改善した。(前年同期比 17.7ポイント)。業種別では、製造業 32.2(+27.1ポイント)、卸売業 29.0(+6.4ポイント)、小売業 21.1(+4.8ポイント)、サービス業 17.5(+10.4ポイント)、建設業 47.1(+1.0ポイント)と全業種で改善した。先行き(10~12月) は、製造業(+17.1ポイント)、卸売業(+9.6ポイント)、小売業(+8.8ポイント)、サービス業(+15.4ポイント)、建設業(+11.5ポイント)と全業種で、さらなる改善の見通し。総合では 15.7と当期比+12.8ポイント(前年同期比 4.6ポイント) を示している。

売上DI

最近3ヵ月の売上DI は、総合 25.1と前期比 14.8ポイント改善した。(前年同期比 21.0ポイント)。業種別では、製造業 24.7(+36.0ポイント)、卸売業 24.2(+3.5ポイント)、小売業 24.6(3.9ポイント)、サービス業 16.5(+13.6ポイント)、建設業 47.1(+2.9ポイント)と小売業を除き改善した。先行き(10~12月) は、製造業(+19.9ポイント)、卸売業(+17.7ポイント)、小売業(+21.1ポイント)、サービス業(+25.8ポイント)、建設業(+21.1ポイント)と全業種で、さらなる改善の見通し。総合では 6.8と当期比+18.3ポイント(前年同期比 5.8ポイント) を示している。

収益DI

最近3ヵ月の収益DI は、総合 21.3と前期比 16.1ポイント改善した。(前年同期比 5.2ポイント)。業種別では、製造業 24.7(+33.6ポイント)、卸売業 24.2(+0.4ポイント)、小売業 15.8(+10.1ポイント)、サービス業 16.5(+9.5ポイント)、建設業 33.7(+9.7ポイント)と全業種で改善した。先行き(10~12月) は、製造業(+15.8ポイント)、卸売業(+4.8ポイント)、小売業(+7.0ポイント)、サービス業(+15.5ポイント)、建設業(+12.5ポイント)と全業種で、さらなる改善の見通し。総合では 11.3と当期比+10.0ポイント(前年同期比 1.5ポイント) を示している。

とよしん景況調査

《 調査要領 》

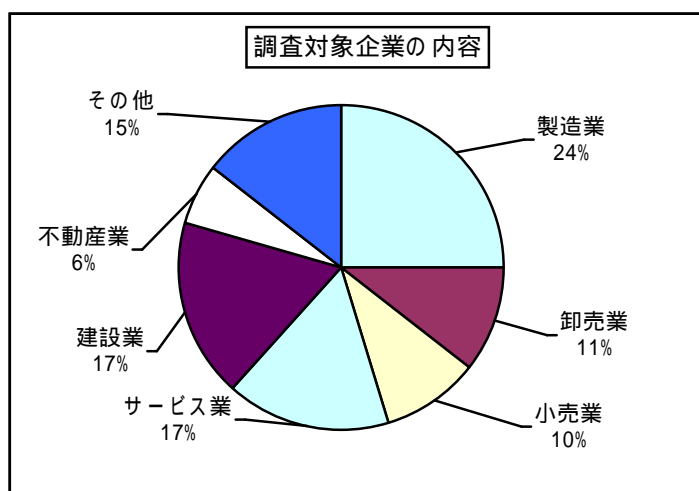
調査対象時期 平成21年 7月～9月 実績
平成21年 10月～12月 見通し

調査方法 聞き取りアンケート調査

調査対象企業 当金庫取引先 586社

分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	時期		平成21年			
	平成20年 7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 見通し
総合	10.8	11.1	32.5	40.2	28.5	15.7
製造業	10.7	15.3	57.4	59.3	32.2	15.1
卸売業	6.6	1.6	30.2	35.4	29.0	19.4
小売業	8.8	10.2	25.5	25.9	21.1	12.3
サービス業	2.8	0.0	25.5	27.9	17.5	2.1
建設業	20.0	19.1	31.0	48.1	47.1	35.6

<売上>

(数値はDI数値)

業種	時期		平成21年			
	平成20年 7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 見通し
総合	4.1	1.0	29.5	39.9	25.1	6.8
製造業	6.4	11.7	58.2	60.7	24.7	4.8
卸売業	3.3	19.4	23.8	27.7	24.2	6.5
小売業	1.8	1.7	27.5	20.7	24.6	3.5
サービス業	1.9	1.0	20.6	30.1	16.5	9.3
建設業	9.0	8.2	25.7	50.0	47.1	26.0

<収益>

(数値はDI数値)

業種	時期		平成21年			
	平成20年 7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 見通し
総合	16.1	9.8	30.5	37.4	21.3	11.3
製造業	22.9	19.7	48.9	58.3	24.7	8.9
卸売業	11.5	3.2	33.3	24.6	24.2	19.4
小売業	7.0	1.7	31.4	25.9	15.8	8.8
サービス業	1.9	4.0	27.5	26.0	16.5	1.0
建設業	23.0	19.1	27.4	43.4	33.7	21.2

総 合

当期(7~9月)は、前期比で業況DI +11.7ポイント、売上DI +14.8ポイント、収益DI +16.1ポイントと全てのDIにおいて改善した。来期見通し(10~12月)は全てのDIにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

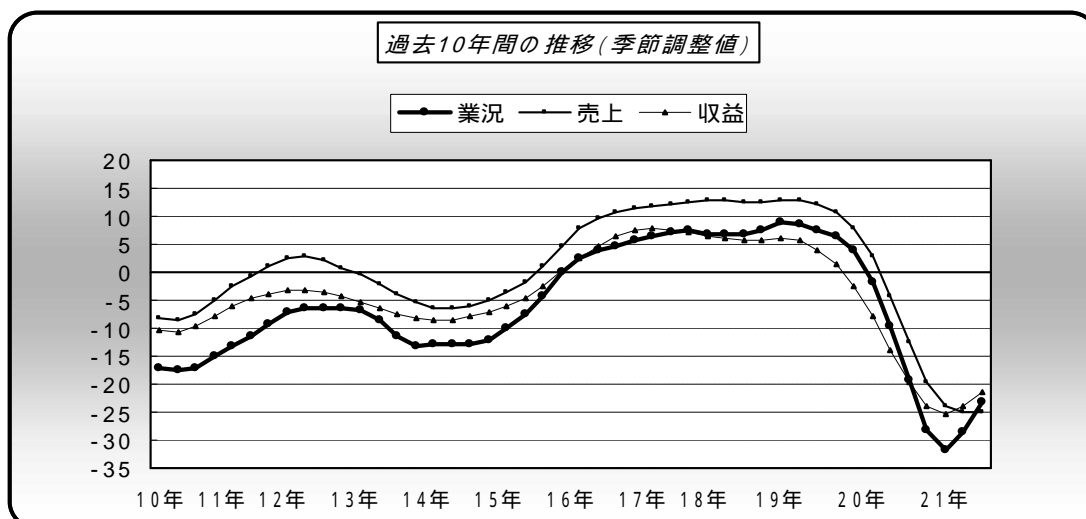
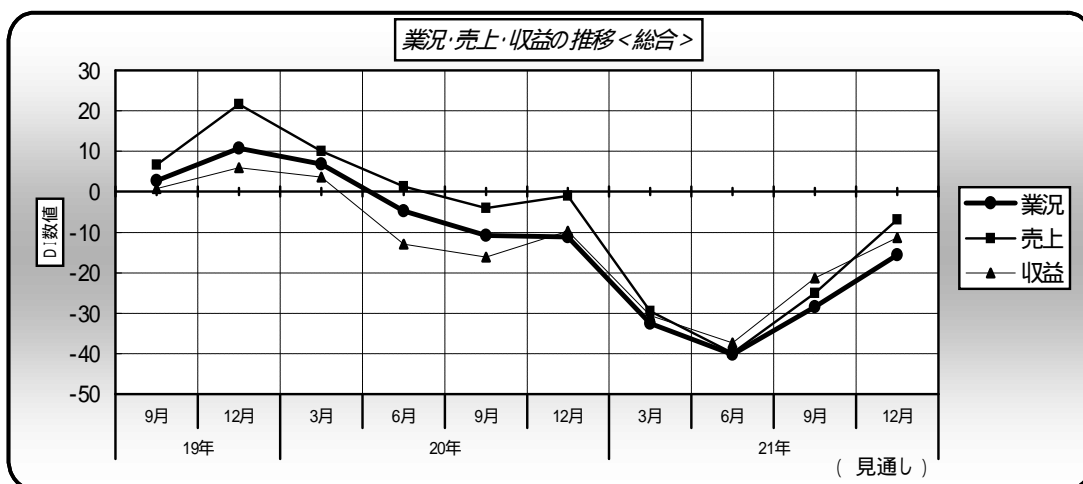
業種別にみると、製造業では、ハイブリッド車を中心とした一部車種のみが好調で、全体では横這いか微増の状況。受注がピーク時の7割程度に回復してきた企業もあるが、金型・工作機械等は、依然低迷している。

卸売業では、天候不順や冷夏のため夏物衣料品、酒類は販売不振である。住宅関連は、環境への配慮から国内材志向が高まっているが、景気低迷からの所得減少等により住宅着工件数は低迷している。

小売業では、定額給付金やプレミアム商品券の効果は限定的であり、冷夏の影響から、エアコンを中心とした電化製品の売上は、例年に比べ2割程度の落込みとなった。

サービス業では、ホテル・旅館業は、新型インフルエンザ流行による観光客のキャンセル増加やビジネス客の減少から、売上は大幅な減少となっている。

建設業では、大型物件の着工延期や計画の見直しが依然続いており、耐震化や建物補強といった小口工事を受注し、売上を確保している。

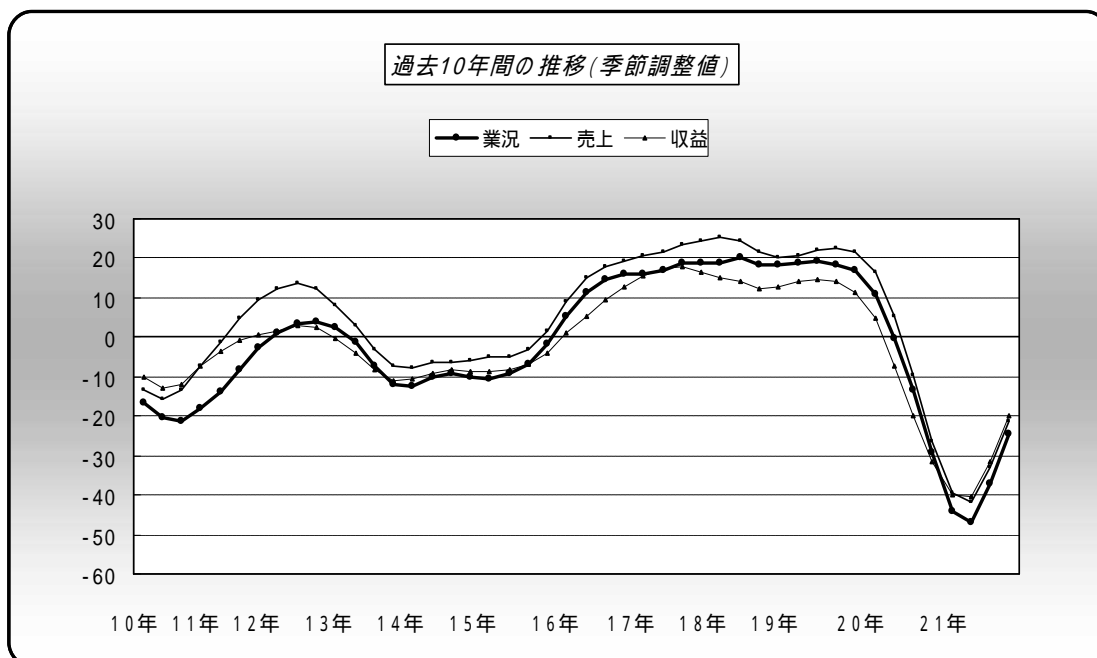
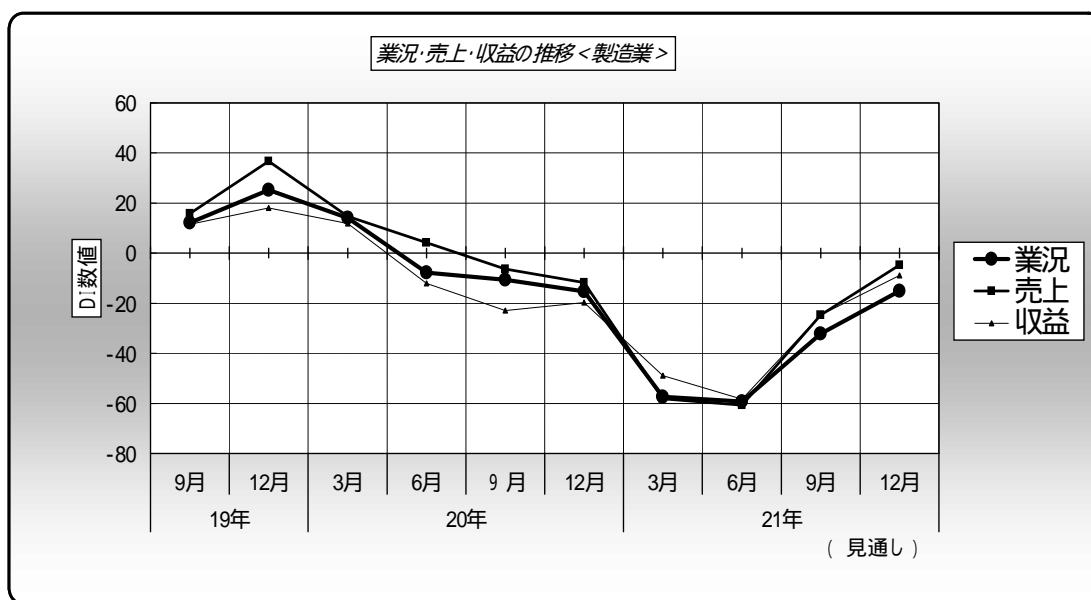


製造業

当期は前期比で業況DI +27.1ポイント、売上DI +36.0ポイント、収益DI +33.6ポイントと全てのDIにおいて改善した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

自動車関連では、ハイブリッド車を中心とした一部車種のみが好調で、全体では横這いか微増の状況。受注がピーク時の7割程度に回復してきた企業もあるが、金型・工作機械等は、依然低迷しており、人員削減をさらに進める可能性もある。

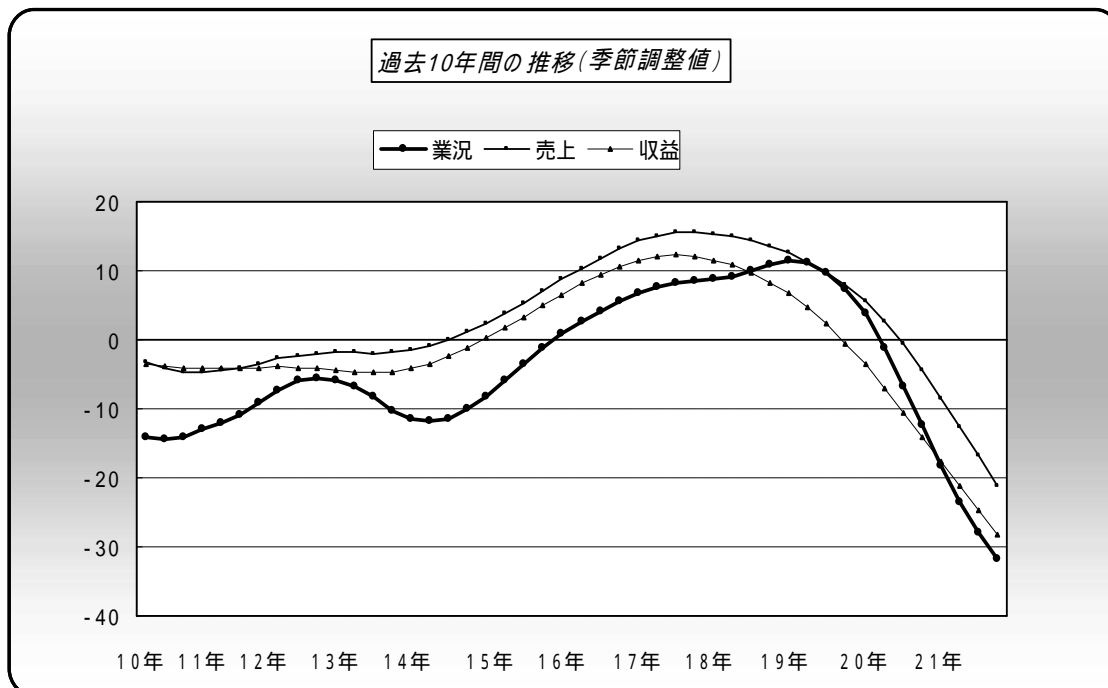
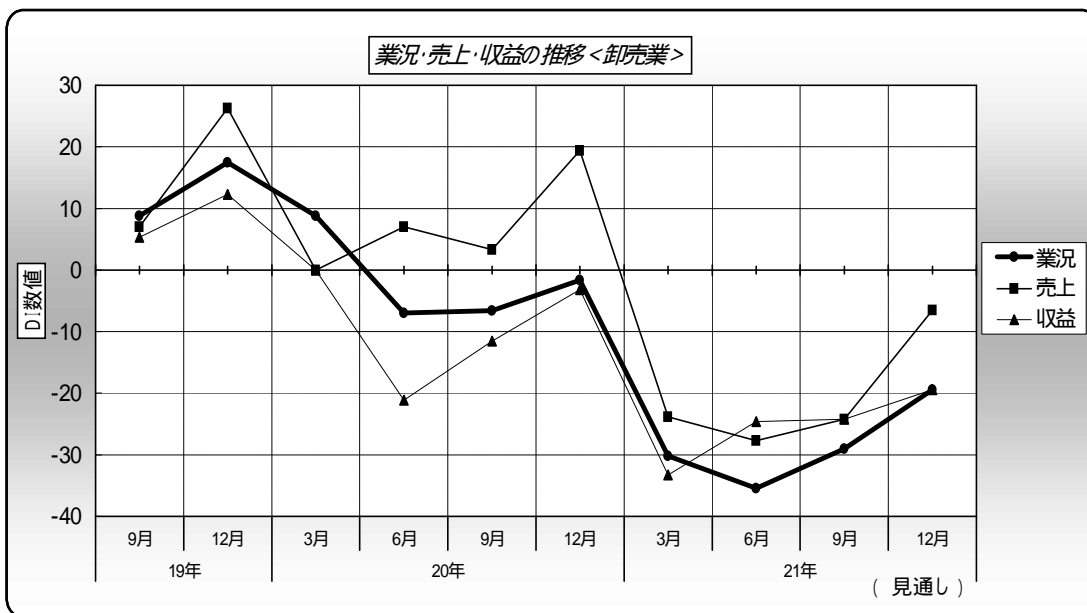
食品関連では、天候不順や冷夏の影響から、ゼリーをはじめとする季節商品の売上は、低調となった。小麦価格等は安定しているが、ダンボールや輸送コストの引下げには至っていない。



卸売業

当期は前期比で業況DI +6.4ポイント、売上DI +3.5ポイント、収益DI +0.4ポイントと全てのDIにおいて改善した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

天候不順や冷夏のため夏物衣料品、酒類は販売不振となっている。住宅関連では、環境への配慮から国内材志向が高まっているが、景気低迷からの所得減少等により住宅着工件数は低迷している。もともと利益率の低い業界であり、経費削減に努めても、利益確保が難しくなっている。



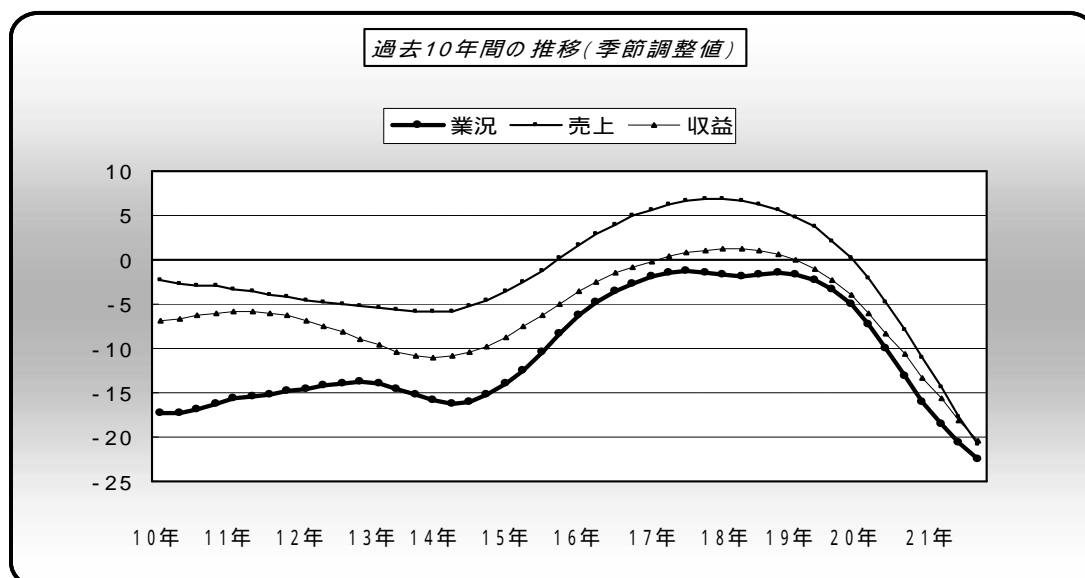
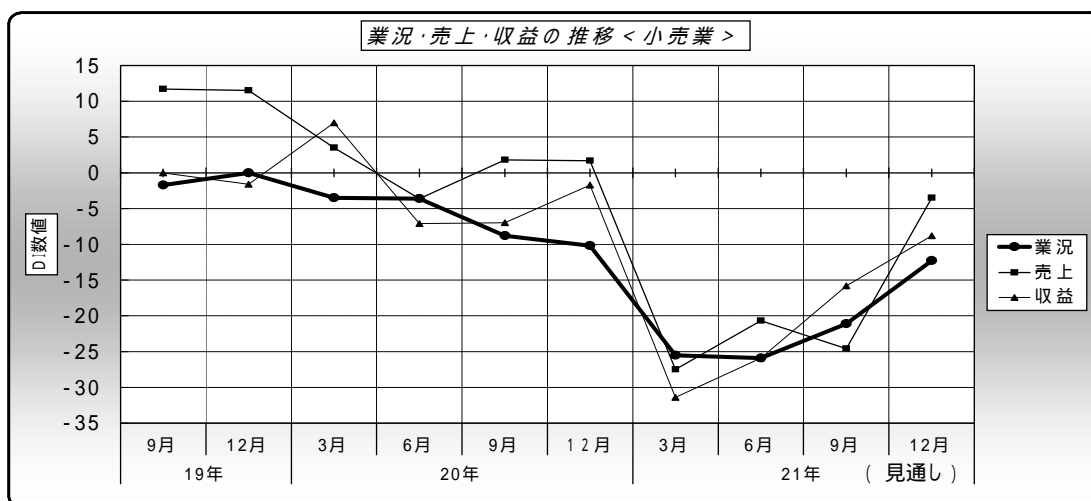
小 売 業

当期は、前期比では業況DI +4.8ポイント、収益DI +10.1ポイント、売上DI 3.9ポイントと業況、収益DIは改善し、売上DIは低下した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

定額給付金やプレミアム商品券の効果も限定的で、目にみえる程の効果は得られなかった。冷夏の影響から、エアコンを中心とした電化製品の売上は、例年に比べ2割程度の落込みとなっている。

自動車販売では、ハイブリッド車を中心としたエコカー減税対象車は売上増加したが、対象外の車種については苦戦が続いている。大型・高級・商用車および中古車は依然低迷している。

ガソリンスタンドでは、高速道路のETC割引実施にもかかわらず、遠出を控える傾向から、売上は微増にとどまっている。また、自動車の燃費向上により、1世帯あたりの消費量減少や競合店舗との競争激化により、収益確保は難しくなっている。



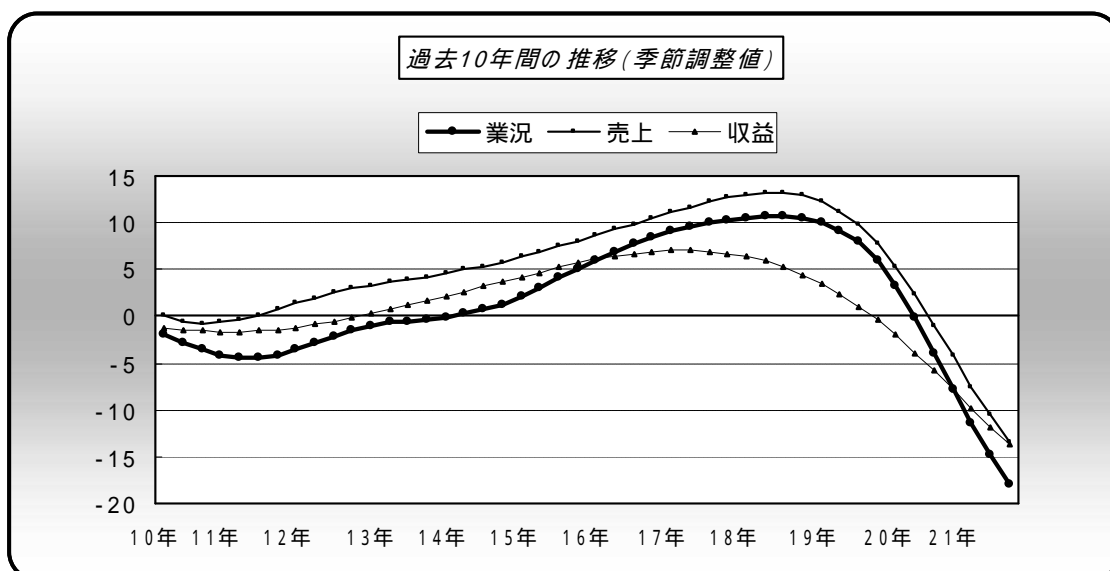
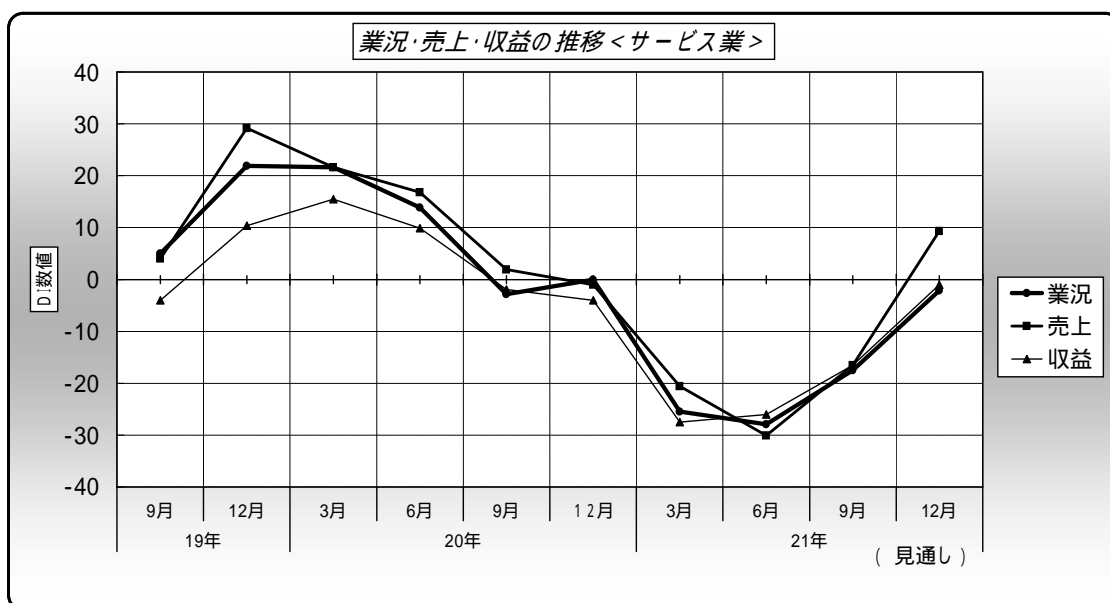
サービス業

当期は、前期比で業況DI +10.4ポイント、売上DI +13.6ポイント、収益DI +9.5ポイントと全てのDIにおいて改善した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

ホテル・旅館業では、新型インフルエンザ流行による観光客のキャンセル増加やビジネス客の減少から、売上は大幅な減少となっている。

医療・保健衛生では、新型インフルエンザ流行から、発熱患者への対応に苦慮している状況。現状では、患者数に大きな変化はおきていないが、流行拡大によって感染を防止するため、一般患者の来院減少の影響が懸念されている。

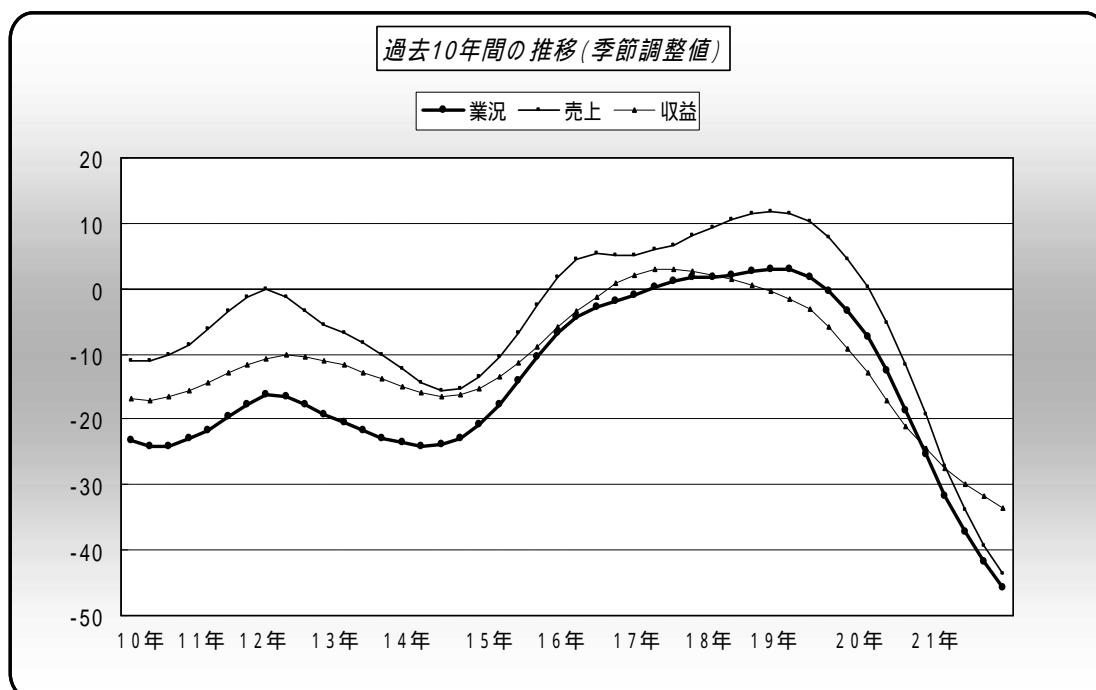
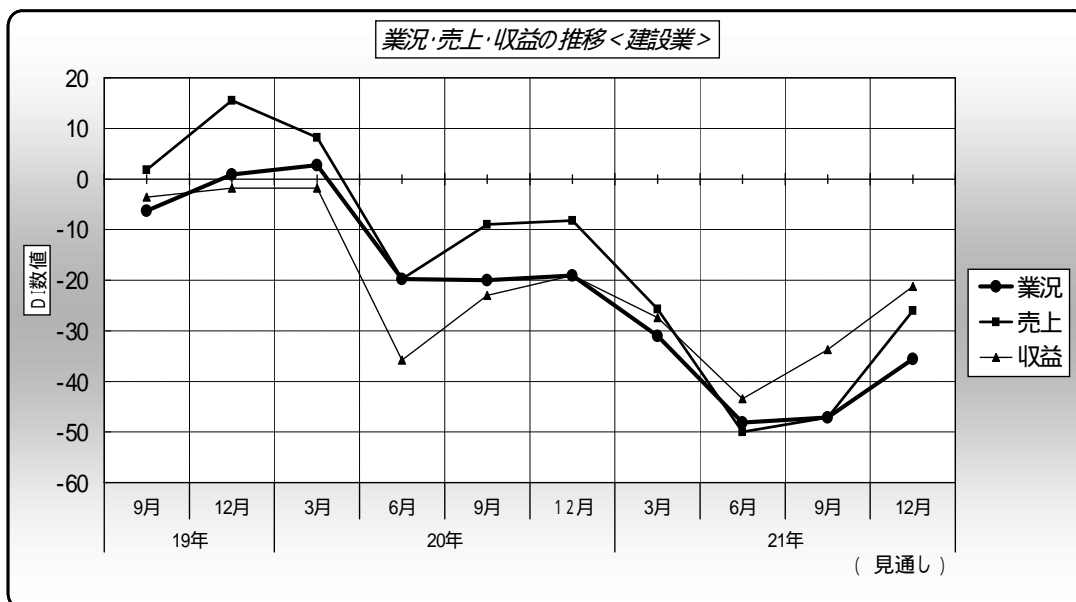
飲食業では、冷夏のためビール等の飲料部門が伸びず、前年に比べ2～3割の売上減少となっている。集客のため安価なランチサービスを展開している店舗もあるが、利幅が低く、また夜の売上増加に結びついていない。また、消費者の節約志向から、客単価の高い高級店舗ほど売上の減少幅が大きくなっている。



建設業

当期は、前期比で業況DI +1.0ポイント、売上DI +2.9ポイント、収益DI +9.7ポイントと全てのDIにおいて小幅ながら改善した。来期は当期比で業況、売上、収益DIの全てにおいてマイナス幅は縮小し、さらなる改善の見通しとなっている。

公共工事については、例年7～9月は受注が少なく、第二東名高速道路や23号バイパス工事等の大型案件の受注は、大手ゼネコンが占めており地元企業への恩恵は少ない。民間工事の受注が低迷しているため、公共工事の入札業者が増加し、単価の引下げを招いている。大型物件の着工延期や計画の見直しが依然続いており、耐震化や建物補強といった小口工事を受注し、売上を確保している状況となっている。



その他

水産業

養鰻業は、シラスは豊漁であったが、うなぎの需要期に品薄状態であったため高値で推移している。今後は若干の価格低下見通しであるが、国内産の需要が強く、当面は大幅な値崩れは発生しない見込みである。

農業

主要品目である夏物キャベツは、天候不順による日照不足から成育不順のため、例年に比べ3～5割程度の高値推移となっている。その他、メロンをはじめトマト・はくさい・ブロッコリー等についても同様に高値推移となった。

近年の傾向として、栽培に手間がかかるうえ相場変動の激しい夏物果物を廃止し、11月頃からキャベツを中心とした冬物野菜の作付け準備を行う農家が増加している。

運輸業

野菜輸送を中心としていた先は、自動車関連と比較して落込みは少ないものの、依然厳しい状況。昨年に比べ原油価格は低下しているものの、荷主からの値下げ要請も強く利益確保には至っていない。自社トラックの稼働率を上昇させ、経費削減とともに取引先の見直し等を進める必要もある。

不動産業

景気低迷からの所得減少等により買手の動きは依然鈍い。売買の中心は15～20百万円で、大型物件は買手がみつからない状況にある。住宅分譲用地は売れ残りが目立ち、価格を下げて販売を開始している。また、不動産業者への問合せ件数も昨年の半数以下という状況で、当面厳しい状況が続くものと思われる。なお、事業用地も低調で、貸倉庫・貸テナント等の空室が目立っている。